

出張講演レポート

場所;LEC 東京リーガルマインド(飯田橋)
「NPO による地域福祉サービス事業・起業運営科」
日時;平成 17 年 8 月 18 日 午後 1 時半～4 時半
聴講者;21名 講演者;巣立ち会メンバー 8名

今回のメンバー出張講演会は、NPO 人材開発機構からの依頼で、講座のなかの一角をメンバーの体験談とグループディスカッションにあてるというものです。今回で3回目となりました。

メンバーは、講演自体が初体験の人も何人かいて、発言メモをチェックするなど、行きの電車でも緊張していて、経験者から笑顔で励まされていました。

講演会では、まず職員から出張講演事業などの説明をおこないました。その後一人ずつ、入院時のことや現在の生活などの体験談を話しました。短い人で3分ぐらい、長い人では10分以上時間をつかい、丁寧に話をしていました。



自分の体験を話すメンバー

「病識を持ってから明るくなった。何でもやろうと思うようになった。」

「長期入院は意欲が薄らぎ、思い切りが減退してしまう。自分で考え、自分で決めることが大切。今が一番幸せ。」

「精神障害者に対して偏見を持たないで欲しい。スタッフは余裕を持ってメンバーと交流を増やしたほうが良い。」



堂々と話していました

「住まい・お金・体 これがしっかりしていれば退院できる。」

「巣立ち風に入って、てんかんが起こらなくなった。これからも頑張る。」

「初めは医師に反発的な態度であったが、次第に前向きになっていった。こひつじ舎を紹介してもらってよかった。」

「心が空虚であったが、こひつじ舎に通い、いいスタッフと働ける場に出会えてよかった。普通に生活できるようになった喜びを感じる。」

その後休憩をはさんで、後半のグループディスカッションでは、聴講生が5人ずつ4グループに分かれて、そこに2人ずつメンバーが加わり、1時間ほどフリートークを行いました。メンバーも、講演の緊張も解けて自然体で接していて、体験を率直に話していました。



聴講者とのディスカッション

最後に各グループから「皆さんの日常生活を知り、自分たちと変わらないのだと感じました」「病識を持つことで考え方が変わるという話から、医療現場でのケアを意識させられました」「服薬の大切さ、地域でケアする場があることが病気と付き合っていく上で大切なのだと感じました」など、実感のこもった感想をいただきました。

帰り道には、メンバーからも「自分の体験を話すことができてよかった」「話すうちに楽になった。またこのような機会があれば出たい」など、出張講演に対する前向きな発言が出ていました。暑い中、皆さんお疲れさまでした。

(築立ち風 長門)